

令和6年3月12日

足立区立寺地小学校 開かれた学校づくり協議会

令和5年度 学校関係評価書

1. 自己評価（学校経営計画・自己評価書）全般について

教育指導目標の施策が具体化されており、進行状況の結果が数値によって確認できる。

『学力向上アクションプラン』については区学力調査通過率において、国語は目標値を超えており、算数はほんの僅か下回った。ワークテストでは国語も算数も学校全体平均正解率が目標を達成している。放課後学習及び朝学習においては計画通り実施されており学力向上につながっている。また、授業改善では児童アンケートで「授業がよくわかった」の回答が95%という高い結果は素晴らしい。

『社会力の育成』の自己肯定感や社会貢献意欲については前年より自己肯定感が微増であるが増加した。異学年交流活動等によって、言葉遣い91%、人間関係94%という結果は日頃の指導の成果が表れていると考えられる。

『健康な児童の育成』について児童の健康意識は肯定的回答として達成基準を下回った。また、体力テストの結果は学年により異なるが、全体的に持久力、走力、投力に課題がある。体力の向上として、楽しく体を動かす様々な経験と具体的な方策指導を今後も継続してほしい。「安心できる環境」は達成基準を上回った。今後も日常の見守りを行い安心安全な環境づくり継続してほしい。

2. 学校から提示された「課題」や「保護者・地域への期待」について

『挨拶名人・靴揃え名人・廊下歩き名人』を生活習慣の取り組みとして児童が落ち着いた雰囲気のもと学習に取り組んでいて、健康的で明るく生活する様子が表れている。基本的な挨拶は校内ではよくできているが、学校以外の地域でも同様にできるよう、人と人とが触れ合う経験を通じて学校・家庭・地域との連携が望まれる。

教育委員会の主催事業として『放課後子ども教室』があり、地域の見守り協力によって行われている事業体制は保護者から「勉強をしてから遊ぶ習慣、社会で生きるための基礎となる力、社会性やコミュニケーション力が身についてきている。」などの言葉が聞かれる。保護者・地域と共通認識することで連携して児童を育ていきたい。

今後の社会を構成する子どもたちが、これからの時代を生きていくために、多様性の授業に対する教育を続けてほしい。